
修正ペン

大輔(だーすけ)

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

修正ペン

【Nコード】

N4491Q

【作者名】

だいすけ
大輔

【あらすじ】

「別れることは辛いこと。本当は自分の気持ちを隠してきただけだった・・・」

見慣れた名前が滲んだ。
見慣れたなんて嘘だった。

口癖の「ねえ」も、何もかも。煙のように消えていった。
どれだけ一緒にいたのかな、そんなことすらもう分からない。
数えられない寂しい日の数、
数えられるほどの側にいた日の数。
わたしはどのくらい泣いてたろう。いつしか涙は枯れた。

笑うだけのわたしに違和感を覚えた貴方、いつもとちょっと違う困った笑顔。

「どうした？」

ぶっきらぼうな優しさももう、辛いだけだよ。
捨てるならもう優しくしないで。

言えない言葉ばかりが宙に浮かんでいる。

ツンデレな人、だけどデレの部分はわたしには見せない。

約束なんて破るもの？そうじゃあ無いはずでしょ？

慣れた嘘も言い訳も、塵も積もれば山になる。

心は泣きたいんだから、気付いてよ、ねえ。

思い出に縋るのも馬鹿らしい。でもそう思えるほど縋る思い出なんてない。

思い返せば、泣いている場面しかないじゃない。

叶った願いだつてないじゃない。

暗い部屋で一人、孤独を抱えて飲み込んできた。

辛いとか、会いたいとか、そんな稚拙な表現は要らない。わたしはただ笑っているだけでよかった。

それでもね、本当は気付いてほしかったよ。

必死で出すまいとした本音は、ひよんなことまで出てきてしまうから。

わたしの名前を冷たく言う声も、

わたしの話をケラケラ笑って聞くところも、

何もかもが懐かしいなんて、そんなの認めたくない。

だけどあるはずのない名前を見ると、どうしてかな。胸が痛くて困るんだ。

動揺を隠して、冷静になって。そしてまた思い出して、寂しくなつて。

伝えられない「さよなら」を、もうすぐ消えてしまつ名前に呟いた。

そして私は修正ペンでソレを消す。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4491q/>

修正ペン

2011年10月8日01時13分発行